

じっくり考え、判断力を育成する道徳の在り方

神奈川県横浜市立東汲沢小学校 主幹教諭 吉田 圭一

小学校6年 道徳 オン・マイ・ウエイ！

番組の特徴

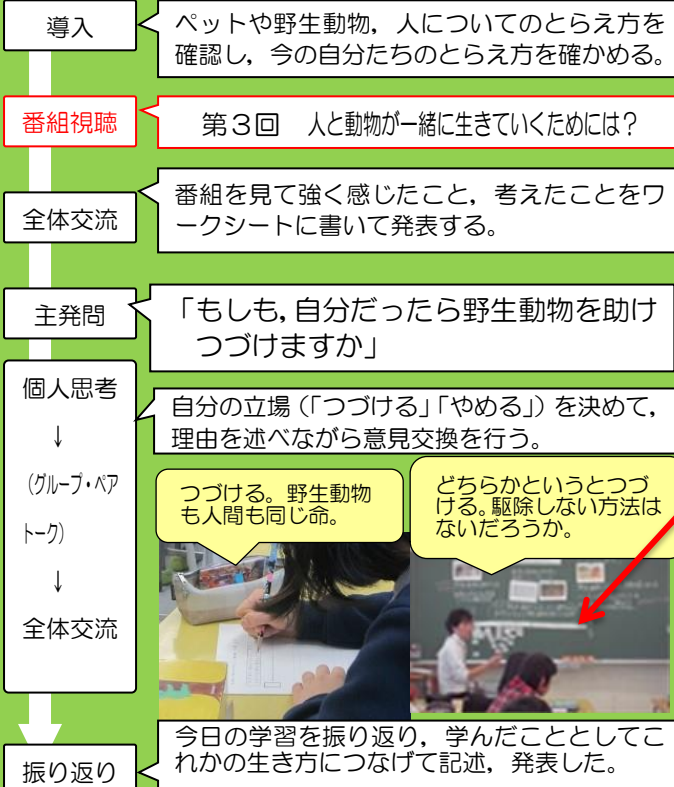
いろいろな困難に立ち向かう主人公たちが、人生の途中で何を考え、どう行動したのかを追ったドキュメンタリー番組である。パーソナリティーが登場する人物のエピソードをヒントに問いを投げかけ、視聴者が自分で考えるオープンエンドの構成である。

研究の概要

都会で暮らす子どもが自然環境について考えを深めることは環境的に難しい。そこで、リアリティがあり意外性をもった番組を扱うことで、感動を分かち合いながら、主体的に学ぶことができるのではないかと考えた。主人公の思いに寄り添いながら葛藤する場面をとらえて議論させた。その結果、簡単には答えが出せない課題に対しても、あきらめず自分ごととして考え、判断しようとする姿がみられるようになった。

授業デザイン

主題名：人と動物と一緒に生きていくためには？3ー(2)
ねらい：自然の偉大さが分かり、環境の保全に努めるとともに、自然との調和を図り自然を愛護する心情を育てる



番組や関連動画クリップの活用意図

共感的に理解しやすい番組

生命を扱う際はリアリティを重視したい。映像からは自然環境や動物の営み、人物の表情などが細かく伝わる。また、動物は子どもにとってとても愛着があり、自分に引き寄せやすいので、同じ土俵で話し易いのではないかと。さらに、番組が主人公の森田さんの葛藤をストレートに投げかけているので、子どもたちが主人公の立場に共感し、心情を考えることができるだろう。

授業デザインにかかわる教師の工夫

素直な思いの共有

番組視聴後、自由な感想交流をする。小さなことでもたわいのないことでもよい。教師だけでなく、クラスみんなで聴き合い、誰がどんなことを言っても受け入れられる雰囲気を作る。

思考ツール（バロメーター）の活用

同じ「つづける」という立場であっても、一人ひとりの思いが微妙に異なる場合がある。名前マグネットを貼った位置の根拠を交流することで、いろいろな理由があることに気づかせるようにする。

継続視聴で学び方の育成

番組を活用した授業を継続的に行うことで、映像から大切な情報を受け止め、どのように生かすか考えられるようにする。主人公の葛藤に近づき自己と向き合えるようにする。

生き生きと学ぶ子どもの姿

児童の反応や感想より

- 野生動物を助けながらも農家の暮らしを守る方法はないか、必死に考えワークシートに書き込んでいた。
- 子どもが番組に浸り、主人公の気持ちに寄り添って考えることができた。

評価シートから(実践前後で有意差が見られた項目)

- じっくりと考えて、自分の考えを深めることができた。

授業参観後の同僚の感想

- 自然環境保護まで広げてとらえて多角的に判断するためには、追加資料の提示や主発問の見直しが必要。

実践を終えて〈行動宣言〉

子どもがドキュメンタリーのパワーと対峙し、今ある自分の考えを総動員して「考える」ことを実感した45分だった。教師が子どもの実態を踏まえ、本時でつかませたい価値にふさわしい資料かどうか見極め、授業をデザインする力が問われた。本時をきっかけに、命はかけがえのないものという子どもの揺るぎない思いに安堵した。一方で、「共生」というねらいに近づくための課題も明らかになった。子どもの多面的・多角的な考え方を育み、引き出せるような道徳を考えていきたい。